

韓国・光州

全南大学校長期交換留学体験記

2019.8.30~2020.2.26



経済学部経営学科

河端 菜々子

《留学するまでの経緯》

高校の時から海外に興味があり、外国人との関わりが好きで英語圏への短期語学研修には積極的に参加してきました。家族が韓国ドラマや K-POP が好きで、家の中ではよく韓国語が流れていたのですが、私は韓国にあまり興味がなく、私には縁のない国なのかなと思っていました。しかし、いつの間にか親近感が湧いていたのか大学 1 年次に第 2 外国語を選ぶ際、何の迷いもなく韓国語を選んでいました。ここから私の中での韓流ブームが始まりました。大学 2 年次には、韓国からの交換留学生(オンニ)のチューターをして、韓国について様々なことを教わり、また日本で頑張るオンニからたくさん刺激を受け、私も韓国語が話せるようになって次は韓国語でオンニと話してみたい！という気持ちや、韓国に 1 度住んでみたい！という憧れを持ち始め、留学を考えるようになりました。しかし、なかなか留学を決心できないまま、大学 3 年生になり、将来したいことが明確になっておらず、就職活動が本格的に始められず悩んでいる時に急遽休学を決心し、まずは私費留学で半年間韓国に行きました。半年では少し物足りなさを感じ、就職活動が終わったら卒業までの間、もう一度韓国に行きたいという気持ちがあったので、帰国し就職活動をしながら交換留学の準備も同時に進め、4 年後期に交換留学の夢が叶いました。



私が韓国に行くきっかけを作ってくれたオンニと
韓国で感動の再会♡



私費留学時代に光州に遊びに行った際、オンニとオンニの知り合いの方が私のために全南大学のキャンパスツアーをしてくださり、来年絶対ここに交換留学する！と約束しました

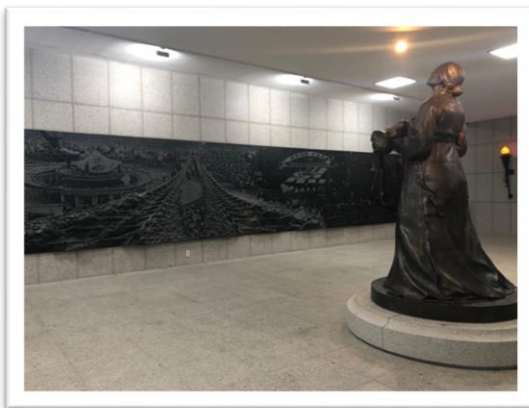
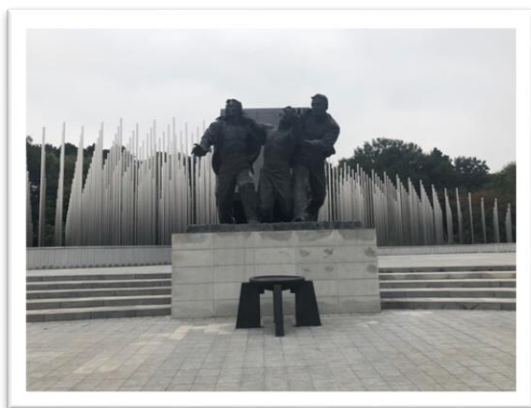
《光州-クァンジュ-について》

光州は韓国南西部の代表都市です。過去には「光州学生独立運動」や軍事政権に抵抗する「光州事件」の地として有名です。私が光州を留学先に選んだのも「タクシー運転手」「光州 5.18」という韓国映画を見て、舞台となった光州に興味を湧いたのも 1 つの理由です。光州には 5.18 民主化運動にまつわる場所がいくつかあります。私もその 1 つである

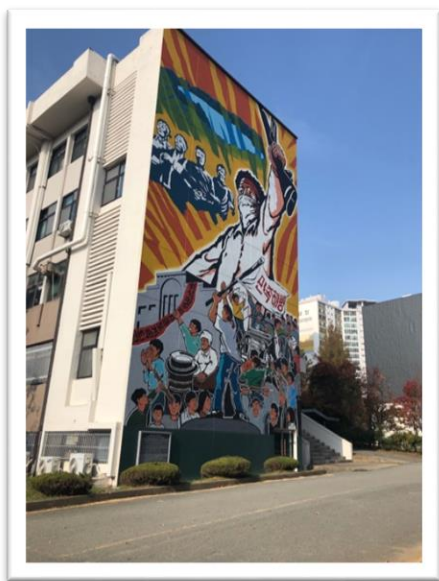
5.18 記念公園を訪れました。また、私が留学した全南大学も 5.18 民主化運動の出発点とされており、学校の敷地内にも民主化運動関連の造形物などが多数あります。

光州⇄ソウル間は高速鉄道 KTX で 2 時間弱、バスで約 3 時間半、光州⇄仁川空港間はバスで約 4 時間程かかります。光州から鉄道はあまり走っていないのですが、高速バスは全国各地に出ているので、交通の便はそこまで不便に思いませんでした。

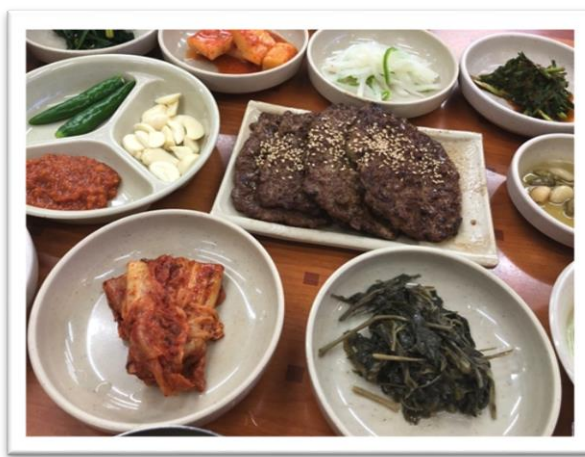
また、光州を含む全羅南道全体は食事が美味しく、おかずも多く出されます。ご飯はこの食堂に入っても美味しかったです！



↑ 5.18 記念公園



↑ 全南大学 光州民衆抗争図壁画



↑ 光州名物トッカルビ

《留学前の語学力と勉強法》

私費留学の際は、韓国語が全くと言っていいほど出来ない状態で行きました。初日にカタコトの英語を使いながら仁川空港から寮まで地下鉄とタクシーで行ったのですが、1人で泣きながら行ったのを今でも覚えています（笑）語学堂では初級のクラスからスタート

したのですが、先生は韓国語しか使いません。授業初日は先生が何を言っているのか全く分からず、先生が話す韓国語をとりあえずカタカナでメモすることが精一杯でした。はじめの頃は毎日寮に帰ってからそのメモを頼りに、カタカナからハングルに直す作業をしていました。2週間経ったあたりから耳が韓国語に慣れ始め、1ヶ月経った頃にはカタカナではなく、ハングルで耳に入ってくるようになりました。私は書いて覚えるよりも、とにかく韓国語を耳に入れ、口に出すという勉強をしていました。ドラマや自然な韓国語が飛び交うバラエティ番組は勉強にもってこいです。見る時間がなければ、テレビを流しているだけでも耳がだんだん慣れてきます。また、留学中はなるべく独り言を韓国語にしてみました。最初のうちはボキャブラリーがないので頭に浮かんだ時点で調べて、口に出して喋る、の繰り返しでしたが、いつの間にか勝手に口から韓国語が出る日がやってきます。さらに韓国語には独特の発音、イントネーションがあります。私はこの発音がかわいくて大好きで、ドラマやテレビ番組を見ながら好きな女優さんやアイドルの発音を何度も何度も真似し、韓国特有のイントネーションを身につけました。

《授業》

<全南大学>交換留学

↓実際の時間割

韓国の大学では1科目履修すると週2or週3回授業があります。

	月(1コマ50分)	火(1コマ75分)	水(1コマ50分)	木(1コマ75分)	金
9:00~ 10:15		韓国語リスニング &スピーキング②		韓国語リスニング &スピーキング②	
10:30~ 12:00		韓国語リーディング &ライティング③		韓国語リーディング &ライティング③	
12:00~ 13:30					
13:30~ 15:00		韓国語リーディング &ライティング②		韓国語リーディング &ライティング②	
15:00~ 16:00	韓国語リスニング& ライティング③		韓国語リスニング& ライティング③		
16:00~ 17:00	韓国語リスニング& ライティング③				
19:00~ 21:00		韓国語③(交換留 学生用特別授業)		韓国語③(交換留 学生用特別授業)	



↑ 交換留学生対象の特別授業のクラスメイト達

<富川大学語学堂>私費留学

授業は 20 コマ/週 月曜日～金曜日 9:00～13:00/日(50 分×4 コマ)

1 学期 20 週 + 2 週間休み(4 学期/年)

私は夏学期と春学期の計 6 ヶ月通いました。



富川大語学堂での授業の様子



2 学期とも成績優秀賞をいただきました…！

レベルテストを受け自分にあったクラスで週 5 日、1 日 4 時間みっちり勉強できるのが、語学堂の良い点でした。

《課外活動》

全南大学での留学生活が始まってすぐ留学生対象のホームステイに参加し、1 泊 2 日で現地の一般家庭にお世話になりました。私のホストファミリーはお父さん、お母さん、全南大生の娘さん、高校生の娘さん、中学生の息子さんの 5 人家族でした。午前中にホストファミリーと会い、お昼ご飯を食べ、夜ご飯の買い出しを一緒にして、夜はチャプチェとキムチチ

ゲを一緒につくりました。ご飯を食べた後は、日韓問題についての話になりました。ちょうど日韓関係が悪い時期で日本を出発するまでテレビやネットで不買運動の報道がされており、韓国に行くことも少しためらうぐらいでしたが、いざ韓国にいてみて現地の方々と話をしていると、国同士はいろいろとありますが、どちらが悪いではなく、それぞれの国に異なった主張があることを理解した上で、考えていく必要があると感じました。また、日本でも韓国でもお互いに煽った報道になっていると感じたので、両国の報道を見て判断することが大切だなとホストファミリーとの会話を通じてそう考えるようになりました。翌日は朝からホストマザーにヨガを教わりながら目を覚まし、近くにある山でお散歩をし、お別れしました。同じ大学に通う娘さんとは、その後も大学で会ったり、授業後に一緒にご飯に行ったり、私が帰国するまで仲良くしてくれました。日韓関係があまり良くない時だったので日本人の私が行っても大丈夫だろうか心配になりましたが温かく受け入れてくださったので、もっともっと韓国という国、韓国の人々を好きになれた2日間になり、最高の交換留学のスタートでした。



チャプチェ作り



《サークル活動》

富川大学時代に参加した日本語サークルは、月に2度ほど集まり、様々な韓国料理を食べに行ったり、様々なところに連れて行ってくださったり、日本人留学生を楽しませてくれました。ハロウィンパーティーでは韓国の伝統的なゲームを準備してくれ、サークルメンバー以外にも日本に興味のある学生も集まってくれて、韓国語と日本語を交えながら様々な会話ができてとても楽しい時間を過ごすことができました。

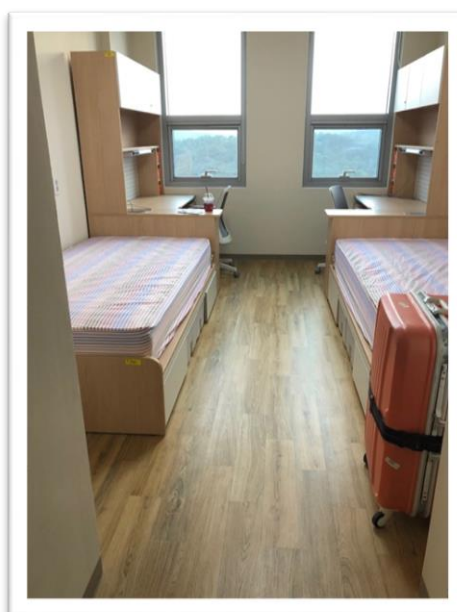
全南大学で参加した日本語サークルでは、課題を手伝ってもらったり、逆に日本語を教えてあげたり、時間があるときに気軽に参加できる雰囲気だったので、とても気楽に参加できるサークルでした。

留学前は、韓国に行けば韓国人の友達はすぐできるだろうと思っていましたが、そう簡単にはできません。このようなサークル活動を大切に、積極的に参加してみてください！



《寮生活・ルームメイト》

富川大学、全南大学留学時、共に大学付属の寮(2人部屋)を利用しました。共同生活ができる自信がなかったので、本当は1人暮らしをしたかったのですが、寮の方が断然安かったので1人暮らしは諦めて寮にしました。富川大の寮の部屋には机、ベッド、クローゼット、シャワー、トイレがあり、共同フロアには冷蔵庫、電子レンジ、冷蔵庫、乾燥機がありました。当時のルームメイトは大学側の気遣いもあり、日本人でした。初めての海外生活で分からないことばかり、不安だらけ、知り合いも友達もない状態からの留學生活のスタートだったので、日本人のルームメイトでよかったです。しかし、朝起きてすぐ使う言葉は日本語、授業中は韓国語を使いますが、授業が終わると日本人同士で集まり日本語ばかり使ってしまうことに1ヶ月経ったあたりから、焦りを感じ始めました。大学に日本人留學生担当の方がいらっしゃったので相談してみたところ、ルームメイトを韓国人に変えてみたら？と、アドバイスをいただき、私も留學前から韓国人の生活に興味を持っており、一緒に暮らすことにも憧れをもっていたので、すぐに部屋を変えてもらいました。新しいルームメイトは2つ下で富川大学の航空サービス科に通っており、将来はCAを目指している女の子でした。当時の私の語学力は初級レベルだったので、初めの頃は翻訳機と英語を使いながら会話をする状態で、言いたいことが伝わっているのか、彼女が伝えたいことも私が正確に受け取れているのか分からず、初めの頃は話しかける時も話しかけられる時も常に緊張していました。しかし、授業で習った韓国語を使いながら会話をしていくうちに彼女も簡単な韓国語をゆっくり話してくれるようになり、わからない単語があった場合には違う言い方に変えて私が分かるまで丁寧に説明してくれました。彼女のおかげで私の語学力は確実に向上しました。韓国語を使う環境を自分で積極的に作り、常に韓国語に触れていると自然と語学は身についていくものです。私が韓国語を話せるようになるにつれ、彼女との距離も徐々に縮まっていき、2人でソウルに買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったり、今でもたまに連絡を取り合う仲になりました。



↑ 富川大学寮 新築でピッカピカでした。地下には食堂、1回にはカフェがあります

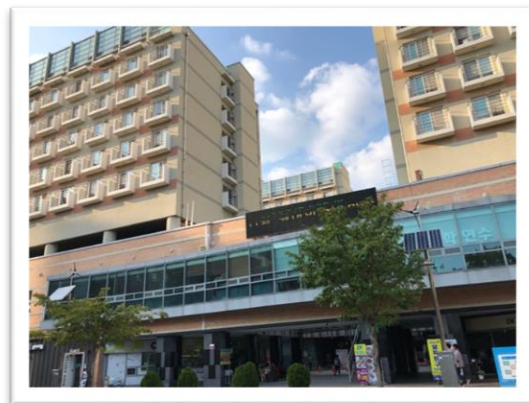


富川大時代のルームメイトと

全南大学でも2人部屋の学生寮を利用しました。部屋にはベッド、机、クローゼット、シャワー、トイレ、冷蔵庫があり、共同フロアには電子レンジや、洗濯機、乾燥機があります。どこの大学の寮も設備はほとんど変わらないと思います。寮の敷地には、コンビニやお弁当屋さん、携帯ショップやPCバンなど寮の敷地内でも生活できるくらいお店がたくさんありました。男子と女子でも寮の棟がわかれておりセキュリティもしっかりしているので安心して寮生活ができると思います。全南大学でのルームメイトは4つ下の工学部の女の子でした。富川大学時代はルームメイトに恵まれ、ルームメイトで悩むことがあまりなかったので、今回もどんなルームメイトと出会えるんだろうと楽しみにしていたのですが、寮につき部屋に入った瞬間、散らかっている部屋にびっくりして、初日からこれから半年間の留学生活不安になりました。部屋も水回りも掃除されている感じがせず、冷蔵庫からは腐った野菜が出てきました…笑 悩んでストレスになり、せっかくの留学生活を楽しめないのはもったいないです。少しでも不安な事や悩みがあったら、寮の担当者や現

地大学の日本人担当の方、バディに相談して早めに解決して楽しい留学生活を送ることが大切だと思います！

また、韓国でも2月ごろから新型肺炎が流行りだし、中国人留学生の2週間の隔離の部屋を設けるために、部屋を移動しました。韓国は日本と比べると早い段階から新型肺炎への対策がしっかりしていたと思います。寮内でも感染対策が厳重にされていたので、残りの留学生活も安心して寮で生活することができました。



全南大学寮



部屋の様子

《インターネット環境・携帯》

韓国はインターネット回線が充実しているので学校内でも寮内でも不自由なくインターネットを使うことができました。また、私はソウル新村にある「JK モバイル」でケータイ契約をしました。韓国の携帯番号を持つことで通販やペダル(出前)ができたので便利でした。値段は毎月約3000円で10GBほど使えました。下の写真は寮でペダルをしてジャージャー麺を頼んだ時の写真です。



《生活習慣の違い》

私が韓国生活で1番ショックを受けたことは韓国ではシャワーとトイレが一緒になっていることが多く、湯船がほとんど付いていないということでした。韓国では寮だけでなく、自宅やホテルなどの宿泊施設でもトイレとシャワーが一緒になっていることが多いです。シャワーを浴びているとトイレも濡れてしまうので、少しストレスになりました。また、私は湯船に浸かりリフレッシュすることが好きで、日本では毎日のようにお風呂に浸かっていたので、韓国に住み始めた時は湯船がなくカルチャーショックを受けました。しかし、韓国人はお風呂に入りたい時はチムジルバンといってサウナとお風呂が付いている施設によく行きます。私もシャワー生活の限界がきたらチムジルバンを利用していました。1000円程で1日中サウナに入ったりお風呂に入ったり、ご飯を食べたり…ゆっくり過ごせる施設なのでおすすめです。



↑ こんな感じでシャワーとトイレの間に洗面台があり仕切られています



↑ チムジルバンにてヤンモリ(羊の頭)とゆで卵とシッケ

《人との出会い》

全南大の日本語学科の教授が、日本人留学生のためにチュソク(韓国お盆)パーティーを開いてくださいました。家族と過ごせない私達を気遣ってご自宅に招待して下さりチュソク料理を振舞ってくださいました。韓国文化を実際に体験でき、とても思い出に残るチュソクを過ごせました。また、帰国する際は、留学生活お疲れ様会も開いてくださりました。日本人留学生のことをいつも気にかけてくださる、お母さんのような安心感のある教授のおかげで私たちも楽しい留学生活を送ることができました！



全南大にも県大同様、バディ制度(チューター制度)がありました。渡韓前から連絡を取り合えたので、会ってすぐに仲良くなれ、寮の手続きや、履修登録、銀行開設などといった手続きの手伝いから留学生活での相談などにものってもらい、本当に私の心の支えでした。私の場合は、日本での留学手続きの段階から、男性がいいか女性がいいか、学科は同じがいいか、バディの日本語の実力の希望など聞かれていたので、自分の条件と合ったバディと出会うことができました。



《奨学金制度》

私は留学をする際に金銭面に不安があり、奨学金制度を探しているときに福井県グローバル人材基金に出会いました。福井県グローバル人材基金は私費留学の際に利用したのですが、渡航費 10 万円、毎月 5 万円貸していただけるので、お金には困ることなく充実した留学生活を送ることができました。また卒業後、福井県内に本社を持つ企業に就職し、3 年間就職すると返還免除になります。留学に行きたいけど金銭面で悩んでいる方もきっといると思いますが、このような制度も使ってぜひ留学にチャレンジしてほしいです。

《留学を終えての感想》

私は昨年の8月下旬から韓国に交換留学に行きましたが、7月頃から日韓関係が悪くなり、毎日のようにニュースで不買運動や反日デモの映像が流れ、家族や友達など周りの人にも韓国へ行くことを反対されていました。しかし、メディアや他人の言葉に影響されて自分がやりたいことをやめてしまったら後悔すると思い、少し不安ではありましたが、韓国へ行くことに決めました。実際韓国に行ってみると、不買運動のポスターを街中やバスの中で見かけることがありましたが、スーパーやコンビニには日本製品が普通に売られていました。また日本人だからといって私が直接嫌な思いをしたことは一度もありませんでした。むしろ、日本人だということを伝えると、「私たちが嫌っているのは日本政府であって日本人ではない。こんな時期なのに来てくれてありがとう！」と歓迎してくれました。この言葉を聞くまでは自分が日本人だということを伝えるのが少し怖かったのですが、こんな言葉をかけてもらえたので安心して生活できるようになりました。

私にとって交換留学は語学レベルが高いという勝手なイメージがあり、最初は私費留学で語学堂に通いました。語学堂で基礎から学んだことで語学力に自信を持つことができ、目標だった交換留学にも挑戦できました。しかし、実際に交換留学を経験してみると、県立大の国際・留学支援課の方々や現地大学の支援課の方々などのサポートやバディ制度が充実しており、安心して気軽に挑戦できる環境が整っていると感じました。また、現地大学での授業も留学生向けの授業が初級から用意されているので、留学に興味があるけど語学力に自信がなく迷っている人、海外生活に不安があり迷っている人にも県立大の交換留学は挑戦しやすいプログラムだと思います！

また、「なんで英語圏じゃないの？」「休学してまで行く意味ある？」と聞かれることがよくありました。しかし、自分が興味のある言語や文化を学ぶことは、自分にとって必ず大きな経験になると思います。大学4年間で何に挑戦するのも皆さんの自由だと思います。やらないで後悔するより、やって後悔するほうが良いと思い、私は休学、私費留学、交換留学を経験しました。皆さんも後悔しない学生生活を送ってください！



非武装地帯ツアーに参加し、緊迫した軍事境界線を目の当たりにして、改めて平和と自由の意味について考えさせられる良いきっかけになりました。